



地域ケア連携から始まるまちづくり

ー釜ヶ崎・寿町・山谷の支援とケアの視点ー



2025年 6月 1日 (日) 14:00~17:00

定員 100名 ※先着順

会場 台東区民会館 第5会議室 (東京都台東区花川戸2-6-5)

参加費 1,000円

東京・山谷は日雇い労働者と簡易宿泊所が集まる街として知られてきましたが、居住者の多くが生活保護を受ける高齢者となり、近年はマンションへの建て替えが進んでいます。このような変化の中で、長年にわたりNPOや福祉・医療・介護サービスなどが協力して、簡易宿泊所・アパート・支援付き住宅等での暮らしを支えてきました。

生活困窮や住まいの喪失など困難を経験した人たちを地域で受け止め、さまざまな階層、属性の人たちが共存するコミュニティのあり方は、社会保障の課題を先取りしてきた面があります。しかし、再開発とともに低家賃住宅が減少する中で、今後同様の機能を持ち続けられるのかは不確かで、一地域だけでは孤立する感が否めません。

そこで、このシンポジウムでは、山谷と共通点の多い大阪・釜ヶ崎（あいりん地域）と横浜寿町からゲストをお招きし、住まいやケアを必要とする人たちの状況、各地域が社会の中で果たしている役割、インフォーマルな支援やネットワークの取り組みなどについて経験交流を行います。

そこには多様なアクターがつくるダイナミズムもあれば、個々の記憶や関係性の変化を大切にする実践もあるかもしれません。社会情勢が混とんとし、拠り所が見出しにくい状況においてこそ、支援やケアの意味を捉え直し、今後の街の展望を見いだす機会にできればと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。



第1部 報告 『地域ケア連携をすすめる会 第16期の議論のまとめ』

報告者 尾方 欣也（三井記念病院／本会 運営委員長）

第2部 報告 『釜ヶ崎・寿町・山谷の支援とケアの視点』

報告者 奥村 晴彦 氏（釜ヶ崎のまち再生フォーラム代表） / 越智 祥太 氏（ことぶき共同診療所 医師）

孫 宜燮 氏（一橋大学大学院社会学研究科 博士課程）

第3部 フロアディスカッション

コーディネーター 千葉 翼、松元文樹（自立支援センター ふるさとの会／本会事務局）

講師プロフィール

奥村 晴彦（おくむら はるひこ）氏

大阪社会医療センター附属病院において43年間、医療ソーシャルワーカー（MSW）、精神保健福祉士（PSW）として勤め、後輩育成のため大学や専門学校での講師活動、大阪府社会福祉協議会の生活困窮者レスキュー事業である「おおさかしあわせネットワーク」のSVとCSW養成研修講師、釜ヶ崎のまち再生フォーラム代表、新今宮スタディーツアーガイド、大阪医療ソーシャルワーカー協会監事。共著に『無料低額診療事業のすべて』、『医療福祉相談ガイドブック』、『日本の社会福祉の現状と展望』、『ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック』など。

参加予定の方は以下の動画をぜひご覧ください。

「大阪社会医療センター50年のあゆみ」（大阪社会医療センター公式チャンネル）

<https://bit.ly/douga-osmc>



越智 祥太（おち しょうた）氏

ことぶき共同診療所勤務。寿町で25年ぐらい働き、一般内科・心療内科・精神科を診察。あちこちの内科・精神科で働き、精神科病院長として隔離・拘束せず任意入院のみで10年勤務歴。横浜水曜パトロールの会や、蒲田・大森野宿者夜回りの会や、多摩川六郷みそしるの会で、野宿者を訪問。反貧困ネットワークなんでも相談会や、北関東医療相談会の手伝い。当事者・家族・ボランティア・支援者・市民で横浜精神科福祉を良くする会を作る。

孫 宜燮（そん うえいそつぷ）氏

一橋大学大学院社会学研究科 博士課程。社会福祉士。2021年から現在まで一橋大学山谷歴史研究センター調査班として活動を開始し、「地域ケア連携をすすめる会」にも関わってきた。

参加申し込み

以下の参加申し込みフォームよりお申込みください。

http://bit.ly/chiiki_care2025



※QRコードからもお申込みいただけます。

お問い合わせ

地域ケア連携をすすめる会 事務局 担当 NPO法人 山友会 油井（ゆい）

TEL 03-3874-1269 Mail community.service.jimukyoku@gmail.com